



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

カタール：「アラブの春」の影響によるアルジャジーラの視聴率低下
(4月25日付ペニンストラ紙ほか)

1. 4月25日付ペニンストラ紙（英語）は、ノースウェスタン大学カタール校（MUQ）が実施した「中東におけるメディアの利用」の調査結果をもとに、「アラブの春」の影響が大きい国々におけるアルジャジーラ（アラビア語放送）の視聴率低下について報じている。概要は以下の通り。
 - (1) NUQが行った「中東におけるメディアの利用」の調査は、カタール・バハレーン・エジプト・ヨルダン・サウジアラビア・レバノン・チュニジア・UAEの8カ国を対象とし、メディアの利用方法および情報源への信頼度について、18歳以上の9,693人から回答を得た。
 - (2) 調査結果では、「アラブの春」の影響を強く受けている3カ国（バハレーン・チュニジア・エジプト）でのアルジャジーラ（アラビア語放送）の視聴者の割合が低くなっている。バハレーンでは4%、チュニジアでは9%、エジプトでは20%にとどまっており、フェイスブックやツイッターなどのソーシャル・メディアがマーケット・シェアを伸ばしている。
2. 25日付カタール・トリビューン紙（英語）は、同調査について、回答した919人のカタール人のうち62%が、過去2年間にアラブ世界におけるニュース報道の質が向上したと考えていること、53%がローカル・メディアの信頼性を確信していること、全体の回答者の多数が地域・国際ニュースよりもローカル・ニュースの方を好んでいることなどを報じている。